

広報TSB

第19号

令和3年度 前期

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

「雪間の草」

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 佐藤一郎



三月から新型コロナウイルス感染者が急激に増え、宮城県、仙台市独自の「緊急事態宣言」が発せられました。さらに、「蔓延防止等重点措置」も加わり、入学式の挙行は危ぶまれておりました。去年は急遽中止となりましたが、今年四月四日の入学式は、時間短縮、そして短期大学部が午前中、大学が午後にと二部構成となり、無事挙行されました。大変喜ばしいことだと思いつつ、式辞を読ませていただきました。

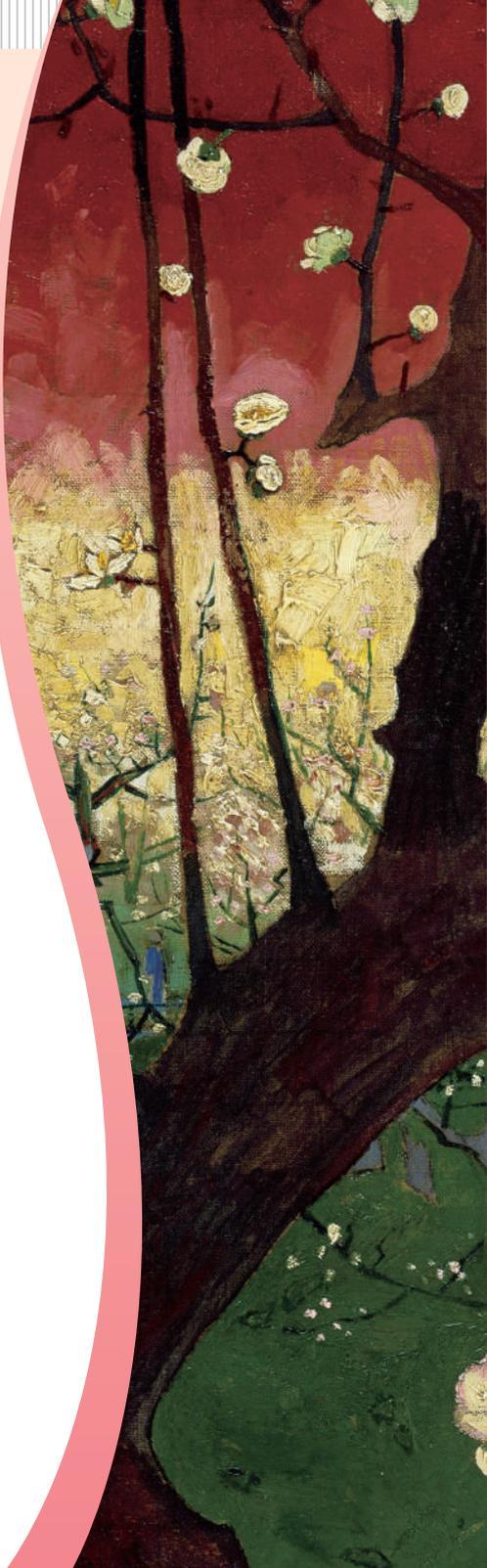
日本には春夏秋冬と季節があり、一年の間に、芽を吹き、花を咲かせ、実をたわませ、枯れるという「植物の命の循環と再生」に、ことのほかわたしたちは思い入れが強いのかも知れません。そのような日本人の浮世絵を鑑賞して、後期印象派の画家ファン・ゴッホは次のように書き記しています。

「日本の芸術を研究してみると、明らかに賢者であり、哲学者であり、知者である人物に出会う。かれはどのように生涯をすご

すのだろうか。……かれはただ一茎の草の芽生えを研究しているのだ。ところがこの草の芽がかれに、あらゆる類いの植物、つぎには季節、田園の広々とした景色、そして動物を、人間の顔を描かせるのだ。このようにしてかれは生涯を暮らす、すべてをなしとげるべく人生は余りに短い。いかね、かれら自身が花であるかのよう、自然の中に生きる、かくも素朴な日本人がわれわれに教えるものこそ、ほんとうの宗教といえるのではなからうか。……」

芽生えそのものに対しての日本人の祈りの感情さえも、ゴッホは感じとっているのでしょう。草木や山川などをも含むありとあらゆる自然の姿のなにも祈りの本質があるとする、平安時代の「草木国土悉皆成佛」が脈々と今日まで伝えられてきているのです。このような祈りの感情は、本学学生たちにも、遺伝子レベルで伝えられているにちがいません。

見た目には華やかな桜もよいけれど、雪の下で力強く芽生えている若草に春の息吹を感じ取るという、藤原家隆の和歌「花をのみ 待つらん人に 山里の雪間の草の春を見せばや」を掲げます。学生たちと接すると、コロナ禍であっても、「雪間の草」そのもののよう、力強く生きるエネルギーと、自分を信頼し未来を確信する姿を、頼もしく感じてしまいます。



大学家政学科

短信



令和三年度春・夏の家政学科の近況をお知らせします。

まず教員の異動についてですが、昨年度末で千葉あゆ美助手が退職された一方で、五月に大岩沙希助手が復帰しました。

今年度の家政学科の新入生は、服飾文化専攻十七名、健康栄養学専攻四十六名、および編入学生（健康栄養学専攻三年）三名、と昨年同様に学科定員を上回りました。男子の新入生が増加傾向で（服飾文化専攻六名、健康栄養学専攻九名）、服飾文化専攻で大幅に増えたのが特徴的です。今年度は昨年度と違って、連日午前中だけではありましたが、オリエンテーションに一定の時間が確保でき、十分な履修指導が行えました。

昨年度から引き続き世界的な新型コロナウイルス感染症禍の影響はありますが、教室の「密」な状態を極力回避するためクラスを分割して授業の開講数を増やすとか、濃厚接触者や感染疑い者が出た際にはクラス単位で休講にする、等の感染予防措置を取りつつ、四月から七月現在に至るまで、感染拡大もなく全面的な対面授業が維持できています。

教育実習や管理栄養士養成課程の臨地実習は、昨年度に比べると実施できたものが多くなりましたが、一部で実習時期の変更や、特例的なりモート実習の実施といった対応もあります。服飾文化専攻では実施できなくなった例年の宿泊での研修旅行の代替措置の一つとして、卒業生が勤務する市内の振袖レンタル店に見学に行き、充実した研修を行うことができました。

新入生たちは徐々に大学生活に慣れ、親しい仲間も

でき、楽しい表情が見られるようになりましたが、新歓行事や体育祭などの学内イベントやサークル活動はすべて取り止めとなっていて、残念な状況ではありますが、今後の活動制限の緩和が期待されます。

健康栄養学専攻学生の管理栄養士国家試験の合格率もここ二年間低迷していましたが、問題点の改善に教員一丸となって注力し、ようやく回復の兆しが見えてきました。今年度はますますの向上を目指して支援活動に尽力しています。

四年生たちは今年も制約の多い状況下で学外実習や就職活動を余儀なくされていますが、これらを乗り越えて一層の成長を遂げてくれるよう、教職員一同全力で支援する所存です。



大学美術表現学科

短信



美術学部卒業後の就職と聞いて「画家」「彫刻家」「工芸家」「アーティスト」「就職先がない」「生活が厳しい」といったことを思い描く方が多いのではないのでしょうか。中には「デザイナーや美術教員という職業があるではないか」と。いずれにせよ就職が困難だと多くの方が思われているのではないのでしょうか。

実は、そんなことは無いのです。美術を学んで、それをセールスポイントとして一般企業をはじめあらゆる業種で、美術の「スキル」と「感性」で仕事をしている人がたくさんいます。アーティストとして活躍する以外にも、美術で自己アピールできる仕事が多く存在しています。

たとえば一般企業では、色や形で五感に訴え消費者の心をつかむ商品開発や企画ができる人、人の目にとまるような広報に力を発揮できる人材を求めています。

本学の美術学部は、そういった美術の特色を活かせる活躍の場をあらゆる業種に求める人に向いていると思います。その特徴のひとつとして、美術の各ジャンルを履修できる点があげられます。「美術」「工芸」「デザイン」「メディア芸術」といった分野の各授業科目を選択科目として学べる体制になっています。これは小さい学部だからこそできることで、美術の専門分野と専門分野の距離も非常に近いのです。また教員間の横の繋がりもスムーズになっています。

多くの美術の分野を体験することは、今後の将来において「強み」になります。応用が効き、新たな仕事にも結びつきます。他にも、一般の大学生より多くの課題をこなしているということ、集中力があるといっ

たことをあげてもよいと思います。これらを基に自分を活かし表現できる就職を目指してもらいたいと考えています。

その準備として「ポートフォリオ」の作成が重要となってきました。自分の経歴や能力を伝える作品集のようなものです。それにより大学内外での活動や携わってきたプロジェクト、スキル、経験を基に自分を売り込みます。

最終学年では、教員免許の取得を希望する者には教育実習が、あるいは学芸員資格を希望する者には博物館実習があります。また大学四年間の学びの集大成として全員卒業研究と、その作品展も控えています。これらの経験を武器として社会で大いに活躍してもらいたいと思っています。



短大生活文化学科

短信



生活文化学科は、令和三年三月十五日に食物栄養学専攻二十五名、子ども生活専攻四十五名の卒業生を送り出しました。食物栄養学専攻では平成二十六年から七年連続、子ども生活専攻は平成二十年度から三十三年間連続して就職率一〇〇%を達成しています。

令和三年四月、食物栄養学専攻に三十六名、子ども生活専攻に三十五名が入学し、新たな年度が始まりました。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種行事は縮小・中止となりました。授業・実験・実習も感染防止に努めながら行っています。

今年度前期の主な行事を紹介いたします。

食物栄養学専攻二年生の実習は、六月から十一月まで校外実習、八月二十三日にフードエンタテイメント演習（株式会社江陽グランドホテル）を行います。また、栄養士としての実力アップ、就職試験・編入試験対策に有効な栄養士実力認定試験（十二月）の受験に向けて、受験対策講座を行っています。

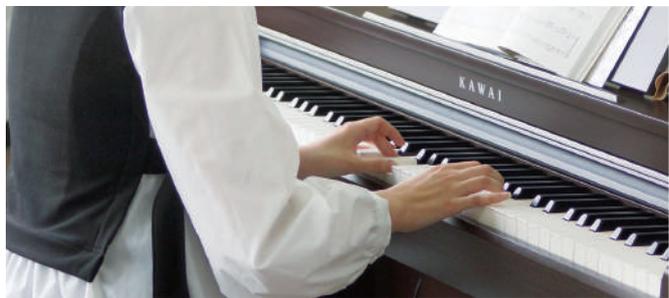
子ども生活専攻二年生の実習は、五月二十四日から六月四日まで、六月二十一日から七月二日まで保育所実習Ⅰ、Ⅱを行い、七月十九日から七月三十日まで施設実習を行いました。

学生の学びに関するトピックとして、二つご紹介します。

一つ目は食物栄養学専攻での地域連携活動です。スパーマーケットの「フレスコ株式会社（フレスコキクチ）」さんと連携協定を結び、学生がメニューの開発と提案、情報提供、情報発信等を行い、フレスコキクチさんが、学生が考案したメニューの評価、助言、情報

提供、商品化等を行います。今年度から二年生の「栄養指導論実習」の授業の中で全員で取り組みます。この取り組みを通して、地域貢献するだけでなく、学生が主体的に取り組むことで食についての学びを深めることを目指しています。詳細は食物栄養学専攻のブログに掲載されています。ぜひご覧ください。

二つ目は、子ども生活専攻で来年度から日本教育カウンセラー協会が認定する資格「ピアヘルパー」を取得できるように準備を進めています。ピアヘルパーは、カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際現場で人とかわるために必要な基本的な力を身につけた者であることを証明するものです。保育の現場で、子どもたちや同僚と円滑な人間関係を作るためのコミュニケーション力向上を目指しています。





大学服飾文化専攻 1年

コロナ禍にあつて、新しい授業形態として、オンラインでのグループ学習が浸透しつつあります。

私たちのクラスでは、学生一人ひとりが率先し、メッセージの発信を心がけ、誰かがメッセージを発信したら、必ず返信してもらうようにしています。

今後も、対面とオンラインを併用し、有意義な学生生活を過ごせるよう、学生一人ひとりを支えていく所存です。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

大学服飾文化専攻 2年

服飾二年生の授業担当の先生方に学生の様子を伺うと「二年生、大変真面目ですよ」と異口同音でのコメントをいただきます。よく取り組んでいると理解し安心しておりましたが、最近、疲れが出ないか少し心配な時もあります。学生たちが適度に力加減していただけるよう見守りたいと思っています。八月に学外での研修を企画しています。コロナウイルス感染防止対策を万全に臨みます。学外に出ることで、少し息抜きになると幸いです。

大学服飾文化専攻 3年

この春に実施した担任との個別面談では、目の前に差し迫った次の進路に向けての具体的な話し合いが持たれました。コロナ禍という異常事態で世の中全体が

浮足立っていることもあり、なかなか具体的な目標設定までには至っていないのが各自の現状ですが、引き続き個人面談の主要話題として十分な話し合いを持つ予定です。また、大学生生活の勉学の集大成ともいえる専門研究が始まり、各自のさらなる飛躍が期待されます。

大学服飾文化専攻 4年

前期の授業が終わろうとしています。少しずつですが、卒業後の進路に関する連絡が届くようになりました。国立大学院入試合格、アパレル企業内定。内定はもらえなかったものの複数の企業に申し込み、一杯がんばったという話も聞きました。かえってこちらの方が私は感心しました。この時期、家庭の教員免許取得のための教育実習も貴重な体験として学生は大変がんばりました。皆が「巣立ち」のための準備を着々と進めています。

大学健康栄養学専攻 1年

今年に入學式が行われ、本専攻では四十六人の新生を迎えることが出来ました。約半数が県外進学者ということで、当初は慣れない一人暮らしやコロナ禍での新たな学生生活に緊張や不安を感じていたと思いますが、幸いにも対面授業が継続されたことでクラスのまとまりも生まれ、今では皆仲良く勉学に励んでいます。その元気とチームワークで最初のハードルである前期試験（七月下旬）を全員がクリアすることを心から願っています。

大学健康栄養学専攻 2年

新学期を対面授業でスタートすることのできた二年次も、早いもので前期を終えようとしています。

二年次では栄養士・管理栄養士の資格取得に向けた専門科目が増え、学修内容が高度化していますが、学生同士が相談しあい切磋琢磨し学修している姿に微笑ましく思います。

コロナ禍の影響で様々な制約のある状況ではありますが、人とのつながりを大切に、充実した大学生活を送ることができるようサポートしていきたいと思えます。

大学健康栄養学専攻 3年

新年度は三名の編入学生を迎えスタートいたしました。講義や実験・実習の他に、就職活動や管理栄養士国家試験に向けた各対策セミナーも新たな科目として加わりました。実際の国家試験では体力と集中力が重要です。忙しい日々のなかでも積極的な学修習慣を身につけることも大切です。また、六月より学外実習も始まり、当該学生はその準備や課題などに励んでおります。これらの経験が大きな成長に繋がってほしいと心より願っております。

大学健康栄養学専攻 4年

健康栄養学専攻の四年生は、就職活動のための証明書の発行が増えました。学生の希望と就職先が合致するよう大学がサポートしています。また、「給食管理」、「臨床栄養」、「公衆栄養」の校外実習が、六月から十月までの間、一週間ずつ行われるため、実習担当の教員を訪れる学生を多く見かけるようになりました。

就活と実習で大変忙しい前期ですが、健康管理に十分配慮して学生最後の夏休みを迎えてほしいものです。

大学美術表現学科 1年

感染症対策を行いながら今年度は入學式を実施する

ことができ安心したものの、まだまだコロナ禍に対する不安は拭い切れず大学生活を送り始めた学生がほとんどではないかと思えます。サークル活動など自粛状態で本来の大学生活とは異なりますが、授業を通して学生の学びたいという強い思いが感じられたこと、またこのような状況での対応力の早さに感心しております。

この四年間で様々な人との繋がりを築き、美術を通して成長していくことを期待しております。

大学美術表現学科 2年

この機会をお借りして、二人の「相棒」についても一人の担任からご報告申し上げます。

四十二年間、本学に尽くされた大堀恵子先生が今年三月をもって退職されました。先生は、その最後の年に担任としてコロナ禍中の道標役を務められました。その姿から多くを学ばせていただきました。

その大先輩からバトンを託されたのが、東京藝大にて博士号を取得されて間もない伊勢周平先生です。私にとって、彼は美術界のShohei Ohnaniです。全てに規格外に素晴らしい次世代のレジエントが本学で育とうとしています。

異動による寂しさとワクワクが交錯する二年生の前半が佳境を迎えようとしています。

大学美術表現学科 3年

学生生活も折り返し地点を過ぎ、四月からコース毎に分かれて勉学に励んでいます。卒業制作を視野に入れながら専門知識の習得と技術の向上を目指し、日々制作に取り組む姿がみられます。今後は、大学院等への進学や就職活動にも意識を向けていく時期となります。夏季休業中に開催される就活対策講座などにも積

極的に参加し、将来の可能性を自分自身の目で見つけて欲しいと思います。

大学生活美術学科 4年

四年次が始まりました。学生たちは、昨年度末から慌ただしく就職活動の準備を進めてきました。ポートフォリオの作成、就職試験の準備やエントリーなど、四月からは大学四年間の学修の集大成となる卒業制作に熱心に取り組んでいます。就職免許取得へ向けた実習を頑張っている学生もいます。コロナ禍の中、十分に対策を行いながら、社会に向けた自立のための経験を積み、それぞれが希望する道へ進めるよう願っています。

短大食物栄養学専攻 1年

充実した学生生活と栄養士の免許取得を目指して、期待に胸を膨らませた三十六名が入学しました。ガイダンス、講義、実習などに、初めのうちは戸惑っているようでしたが、頑張っており徐々に慣れてきました。現在は、オープンキャンパスなどの学生スタッフとして汗を流し、前期試験に向けての勉強にも励んでいます。クラスの皆と協力し、切磋琢磨しながら有意義な学生生活を過ごしてほしいと願っています。

短大食物栄養学専攻 2年

クラスでは就職活動や校外実習が始まり、忙しい日々を過ごしています。彼らはコロナ禍での進学であったため、入学式をはじめ学内行事の多くが中止になるなど、本来の学生生活を楽しむことができません。今に至っています。そのような中であっても皆で協力し、実習やオープンキャンパスも立派にやり遂げ、この一年で

大きく成長しました。そんな彼らに、残り少ない学生生活を謳歌できる日が一日も早く戻ってくることを願ってやみません。

短大子ども生活専攻 1年

この四月、子ども生活専攻第十七期生は、三十四名でスタートいたしました。入学当初は、不安や戸惑いがあったようですが、今は元氣一杯勉学等取り組んでいます。このコロナ禍ではありますが、十月の大学祭に向け、自分たちに何ができるのか、クラス全員で準備をすすめております。皆で協力し話し合い、よりよいものを創り出そうとする姿は、未来の保育者としての期待がふくらむばかりです。

短大の二年間はあっという間に流れていきます。その中で、同じ志をもつ仲間同士が、深く学びあっていることと願っております。

短大子ども生活専攻 2年

今年度は本実習に向けての準備のために、四月から慌ただしく学校生活が始まりました。そして五月二十四日から、初めての実習である保育所実習Ⅰが、六月二十一日からは保育所実習Ⅱが始まりました。夜遅くまで指導案や実習日誌と格闘して体調不良になった学生も出ましたが、無事に実習を終えることができました。そして七月十九日からは、児童養護施設や障害者支援施設などで行われる施設実習が始まりました。今の二年生は、コロナ禍で施設見学実習に行っていないので、全く勝手の分からない所で不安を抱えながらのスタートだったと思います。ぜひ、充実した実習になるように精一杯頑張ってくださいと願う次第です。

私の研究-研究紹介-



大学 美術表現学科 教授
鈴木 専

【専門分野】メディア芸術
【主な担当科目】メディア芸術基礎Ⅰ、Ⅱ、
絵画基礎Ⅰ、Ⅱ、アニメゲームⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、
卒業研究Ⅰ、Ⅱ

もうずいぶん昔の話。西池袋・すいどーばた美術学院の浪人生だった頃、デッサンや油画やいろいろなものを描く際にいつも決まって頭に浮かぶイメージがありました。それは「こうして絵を描いている最中も、自分も宇宙の時間も実は度々止まっていて、その止まっている間は自分と宇宙はどろどろに溶り合っている、時間が再び動き始めると瞬時にいろんなものが元に戻って、たとえ十万年ぶに止まっていたとしても、な～んにも気づかずこの絵のつづきをここで描いている」これ現在のなのかも？」というもの。

大学時代は、一昨日や昨日の自分が残した油絵具の筆致の上に、今日や明日や明後日の筆致を重ねてゆくのが楽しかった。絵を完成させようとするよりも、画面の中で時間が重なるってゆく様を見ながら制作するのが好きでした。

そして現在、アニメーションを作っている私。強引な解釈ですが、レイヤーの重なり(絵具層)を主に正面から観ると絵画一つ一つのレイヤーを剥がして時間軸順に並べて再生するとアニメになるのではないかと考えています。たくさん紙に鉛筆やペンで絵を描き、時には調子を加え、背景の描画にはガッシュや墨を用い、その原稿をPCに突っ込み、デジタル工程を経て、アニメはやっと動き始めます。そう、ずいぶん昔に妄想していたあのどろどろに溶けていた時間の枠で、現在は作品を作っているのかもしれない。作品の新しい時間、その混沌から少しずつ滲み生まれているのです。



短大 生活文化学科 准教授
岡崎善治

【専門分野】教育学・保育学
【主な担当科目】保育学論、
教育・保育方法論、特別支援教育、
保育内容(環境)、保育、教職実践演習

私の現在の主な研究テーマは、保育の歴史と保育者のあり方、保育の方法と保育実践、折り紙製作の指導方法の三つです。元々私は保育者ですが、社会人として初めてご縁をいただいたのが幼稚園ということもあって、現在右肩下がりで減少し続けている幼稚園の現状から、保育所や認定こども園といった保育施設に関わるこれまでとこれからについて関心を寄せています。

我が国の縦割り行政の中で制度化されたといっても過言ではない保育の歴史において、小学校就学前までの子どもを育てる保育施設と、そこで働く幼稚園教諭・保育士・保育教諭と呼ばれる保育者のあり方についても、現在の子どもたちの姿から考えなくてはならないことだと思えます。また、実際の保育についても、子どもたちとの日常生活から生み出される様々な活動の中での保育の営みを通じて、子どもの健全な発達や成長を支える保育者の保育の方法についても一様ではありませんので、そのあり様についても検討中です。

我が国における保育史の始期ともいえる明治期での形式的な保育から現在の保育に至るまでの時代の流れの中で、折り紙製作は明治期から取り入れられている保育活動の一つではありますが、そのあり様は現在に至ってもその形を変えないで取り入れられています。現在の子どもたちの姿から見えてくる指導方法・指導のあり方について、他の保育実践を含め、保育現場で生きている実践研究を今後行っていきたいと思います。



短大 生活文化学科 講師
高橋 恵美

【専門分野】幼児教育・保育
【主な担当科目】保育の実技と演習、
保育内容の指導法、保育内容総論、
保育内容(環境)、保育の計画と評価、
保育・教育実践演習 保育実習指導Ⅰ

幼稚園や保育所で保育者として勤務する中で、子どもと親密性を生成する手あそびの取り組みについて、日常の保育の中で考えるようになっていったのが研究の始まりです。保育現場で、多くの実習生を指導していく中で、子どもの前では自身の表現に精一杯になっている実習生の姿から、保育者養成課程の学習プログラムにも関心をもつようになったことから「表現遊び」の研究へ取り組むことに至りました。

子どもの「表現する力」を育てていくためには、温かくつろげる場の雰囲気と保育者の許容的・奨励的な態度が必要です。保育者が手本となって遊びを始めたとしても、保育者の働きかけによって、子どもの自発性を持った遊びとなり、双方の展開へとなっていきます。このように循環していく遊びの経験が心を動かし、子どもの自発性や主体的な力を培っていくのです。

子どもの豊かな表現を涵養する保育者の育成には、知識や技術の習得に留まらずに、知識や技術を駆使した先に起きうる心のゆらぎ(感性の育ち)について理解を深められるような、学びが求められています。自然豊かな本学のキャンパスで、学生たちが感性豊かに仲間と共に学びあい、体験を通して保育者としての資質を育める環境は、やがて保育の現場に出て実践する上でとても大切な基盤となっていくでしょう。今後も保育者としての経験を活かして、学生たちの学びへの一助となれるよう努めていきたいと思います。

地域連携事業 親子クッキング教室 「親子で日本の文化に親しもう ―夏越の祓ごはん弁当をつくらう―」

六月に「親子クッキング教室」を虹の丘児童センターの要請に応じて大学との共催で実施しました。地域の親子八組二十二名と児童センター職員二名が参加、健康栄養学専攻一年生三十名、担任教員二名がボランティアとして参加しました。学生には新型コロナウイルス予防対策として行事の前後二週間の検温と行動記録の提出、衛生検査も行い、密にならない人員配置を心がけました。

六月末に行われる夏越の祓は、神社などで大きな茅の輪（ちのわ）をくぐりながら無病息災を願い、半年間の穢を払う日本の行事です。小豆入り雑穀ごはんの上に茅の輪の天ぶらをのせたお弁当を考案。「しそ巻」を親子で作り、天ぷらや和菓子は学生が調理してお弁当が完成し、各自持ち帰りました。



地域連携事業 子ども食堂ボランティア活動を通して 夢への一歩を

ボランティアの語源は自由意志という意味を持つラテン語の（voluntare）に始まるといわれています。しかし、コロナ禍で様々な地域活動も制限されている中、「自由に自分の意思で行動する」ということが困難な状況にあります。それでも唯一、命に直結する子ども食堂だけは学生ボランティアを受け入れてくれたのです。そこで、「食」と「子ども」に大きく関わる本学の健康栄養学・食物栄養学・子ども生活専攻の一年生の有志がまずは塩竈市内の子ども食堂のボランティア活動に参加できるようになりました。少しでも地域の方々が安心して過ごせるよう、学びを生かし、社会貢献しようとする学生たちの若き力に期待しています。



障がい学生支援センターから

障害があることで障害のない人たちとは違う扱いを受けて困った、自分の障害に合った必要な工夫ややり方をしてもらえなかったという人たちの声を受けて、平成二十五年に障害者差別解消法が成立し、今年の五月に改正案が成立しました。大学において、「障害者に対する差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が法的義務となりました。障害のことで悩んだり困っている方は、遠慮なく学生相談所や保健センターにご相談ください。

最近、障害について理解のない言動に傷ついたという相談も寄せられています。学生の皆様には、障害のことに限らず、自分の言動が相手を傷つけてはいないか等、今一度注意を払っていただき、お互いに思いやりを持って接することを心掛けていただきたいと思います。

人事異動

新任の教職員

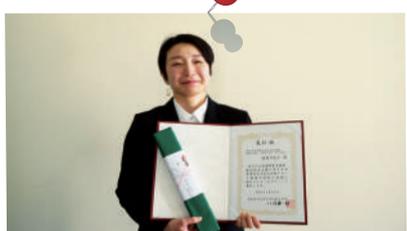
大学講師 伊勢 周平
大学短大事務部教務課 主事 黒澤 宜子
大学契約助手 秋本 ひかり
大学副手 鈴木 美穂
菅村 明生（五月一日付）
大学短大事務部事務補佐員 川角 奈々

退職の教職員

大学講師 大堀 恵子
短大准教授 佐藤 恵
大学契約助手 千葉 あゆ美
大学副手 川角 由
大学短大事務部入試課長 遠藤 保博

PHOTO ALBUM

(令和3年度 前期)



栄養士実力認定試験・成績優秀者表彰

栄養士実力認定試験で課程別(短期大学)全国順位19位を獲得した短大食物栄養学専攻の佐藤夕起さんが、3月15日の卒業式で学内表彰を受けました。



入学式

4月4日(日)に行われた令和3年度「入学式」。短大と大学とで時間をずらし、規模縮小・時間短縮の形式で挙行いたしました。



短期大学部

「新入生を対象とした消費者教育出張講座」

5月25日(火)に行われた講座では、若者を狙う甘い罠・お金の使い方・消費トラブルの被害防止等について、具体的な例を交えながらわかりやすくお話ししていただきました。



服飾講座(ブログ)

服飾文化専攻ではブログで5月末から服飾講座(全8回)を配信しています。様々な観点から服飾について学ぶことができます。(大学HPから見ることができます。)
<https://www.mishima.ac.jp/tsb/category/fashion/>



オープンキャンパス

6月19日(土)に開催したオープンキャンパス。オレンジ色のTシャツを着た学生スタッフが講座を盛り上げてくれました!



学生サポートスタッフ研修会

6月25日(金)・28日(月)に行われた研修会に出席し、登録した学生はこれから仙台市立学校に学生サポートスタッフとして派遣されます。



食物栄養学専攻「給食管理実習Ⅱ」

6月29日(火)のテーマは「鉄分を食事に取り入れよう」で、ぶりの照り焼き、切り干し大根、あさり青菜のポン酢和え、アセロラゼリーのお弁当でした。



のびのびくらぶ公開講座・ねんどであそぼう

7月16日(金)に美術表現学科の立花布美子先生と学生が親子で参加する講座を行いました。親子で協力しながら粘土をのばしました。スタンプを押してお皿の完成です。



伝統・創作こけし×デジタルメディア

7月18日(日)に開催された「サイエンスデイ2021」の体験ブース型(オンライン)に美術学部こけし研究部が出展、m3ラボ賞ときれいで賞を受賞しました。

就職支援センターから

◎WEB(オンライン)採用選考への支援

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の影響で、従来型の対面式の選考活動がストップし、企業側と学生側が一時は大混乱に陥りました。しかし、ZoomやMicrosoft Teams等のWEB会議用アプリケーションがあつという間に普及し、WEBを活用した採用選考活動が一般化していきました。

今年度は、さらに採用選考活動のWEB化が一層進み、面接やSPI等の試験に加え、インターンシップ、グループディスカッション等もWEB化しています。万一、新型コロナウイルスの感染が拡大しても採用選考活動はストップせずに継続するものと思われれます。

この様な中、一番の課題は、学内にWI-FI・パソコン等の通信環境が整ったWEB面接ができる部屋を用意して学生を支援することでした。現在は、一部屋ですが準備ができ撮影用のスポットライト等も設置して学生の表情を明るく見せられるような工夫もしました。この部屋を希望する学生には、1回につき1時間から1時間半を上限に貸与する支援を展開しています。学生からはとても好評で、連日多くの学生が利用し採用内定を得ています。今後も引き続き就職支援等の質の向上を図っていく所存です。